

病害虫発生予察注意報第 3 号

佐賀県

現在、普通期水稲でトビイロウンカが急増しており、今後、発生が更に増加して被害を生じる恐れがあります。ついては、以下を参考に防除を徹底してください。

作物名：普通期水稲
病害虫名：トビイロウンカ



トビイロウンカ成虫

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- 8月23日～25日に実施した普通期水稲の巡回調査（48圃場）では、トビイロウンカの発生圃場率 43.8%（平年 22.2%、前年 2.1%）、発生株率 10.4%（平年 3.5%、前年 0.1%）であり、平年及び前年より高く、大きな被害を生じた平成 25 年の同時期（発生圃場率：68.8%、発生株率 14.8%）に近い発生となっている。（図 1、表 1、写真 1）。なお、一部には、多発生圃場も認められる（写真 2）。
- 発生株率は 8 月上旬から下旬にかけて、急激に増加しており（図 1）、今後更に若齢幼虫が増加すると考えられる。
- 福岡管区气象台が 8 月 24 日に発表した九州北部地方の向こう 1 ヶ月の予報では、気温は平年より高いと予想され、本虫の増殖に好適な条件となっており、発生が更に増加し被害を生じる恐れがある。

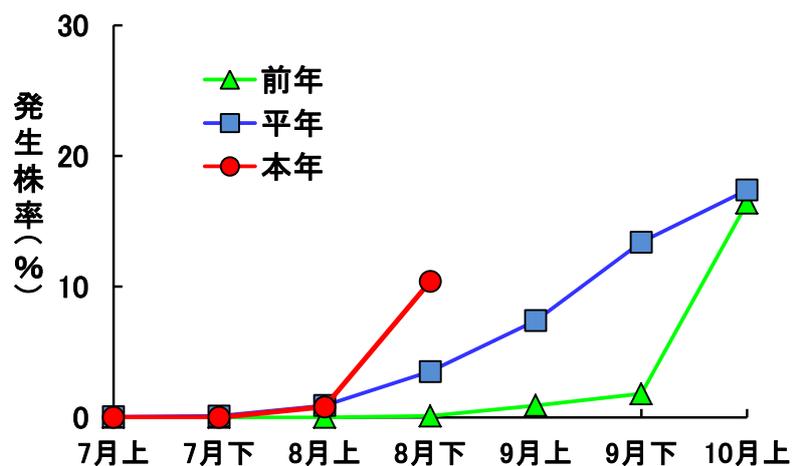


図 1 普通期水稲におけるトビイロウンカの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- 薬剤による防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。
- トビイロウンカの発生状況は、圃場の外からの観察では確認できない。また、移植

時期やこれまでの防除の違いによって、圃場毎に発生状況は大きく異なる。このため、8月に防除を行った圃場においても、予想される発生パターン（図2）を参考とし、**必ず9月以降、随時払い落とし法によって各圃場毎の発生量及び発育ステージを確認し、防除の要否及び時期を判断する。**

- (3) その後も発生状況を調査し、**多発生圃場においては追加防除を行う。**
- (4) 本虫は株元に生息しているので、**薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。**
- (5) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、**収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。**

表1 普通期水稻におけるトビイロウンカの発生状況
(25株調査、平成29年8月23日～25日)

調査地点	発生株率	株当たり最高頭数 ^{注)}		幼虫の主な齢期
		成虫	幼虫	
佐賀市東与賀町	4	—	1	中齢
〃	12	1	3	中齢
〃	0	—	—	
〃	24	1	3	中齢
多久市北多久町	0	—	—	
〃	36	—	1	中齢
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
小城市三日月町	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
鳥栖市三島町	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
神崎市千代田町	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
吉野ヶ里町	4	1	—	
〃	4	2	—	
〃	4	1	—	
〃	0	—	—	
唐津市半田	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
伊万里市二里町	4	1	—	
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	12	1	1	老齢
武雄市橘町	0	—	—	
〃	4	—	1	中齢
〃	48	—	6	中齢
〃	0	—	—	
白石町新明	24	—	2	中齢
〃	0	—	—	
〃	0	—	—	
〃	8	—	1	中齢
鹿島市	24	—	4	中齢
〃	8	1	1	中齢
〃	8	1	—	
〃	20	—	2	中～老齢
嬉野市嬉野町	76	1	20	中～老齢
〃	60	—	16	中～老齢
〃	56	1	30	中～老齢
〃	60	4	3	中齢
発生圃場率(%)	43.8			
本年発生株率(%)	10.4			
平年発生株率(%)	3.5			
(平年比)	多			
前年発生株率(%)	0.1			
(前年比)	多			

注)各ほ場において25株ずつ調査を行い、そのうち最も発生が多かった株に寄生している頭数を最高頭数として表示。



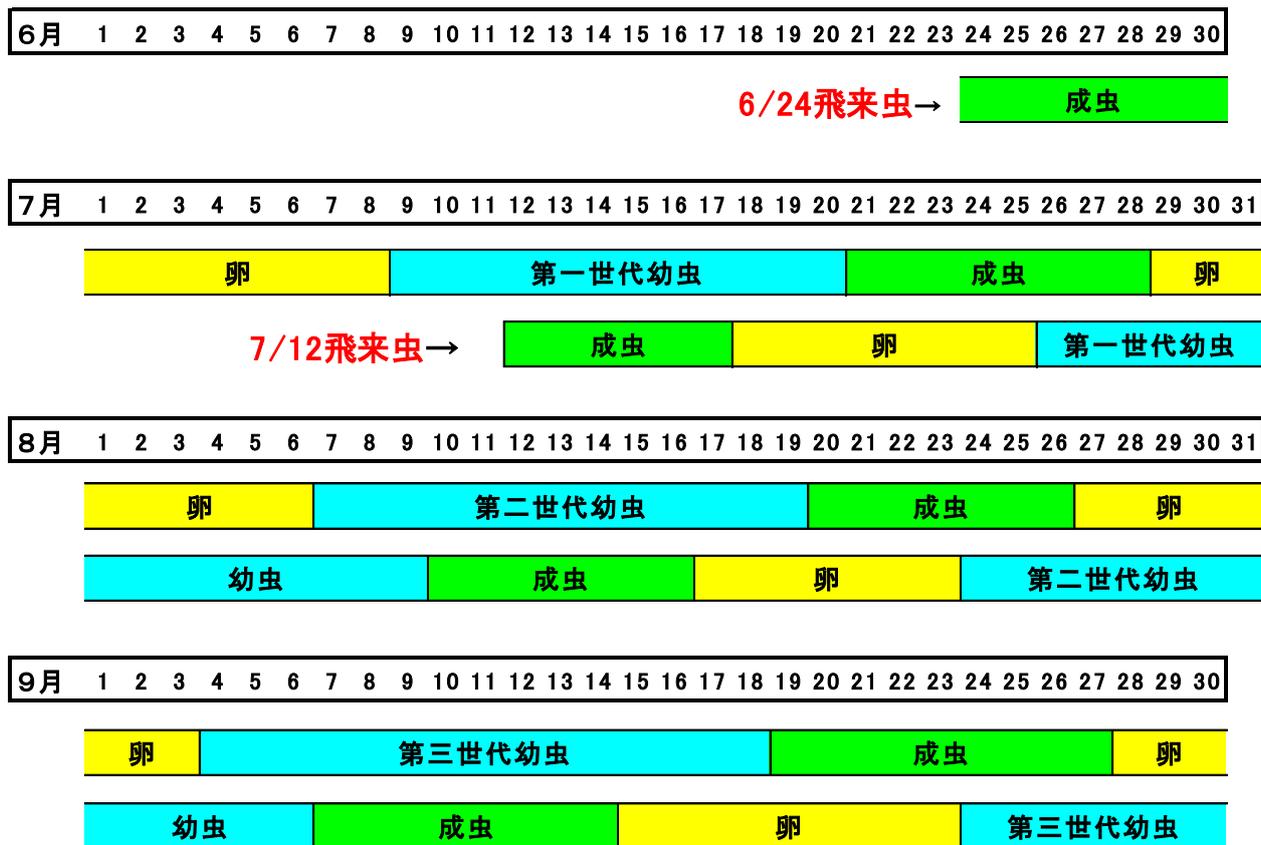
写真1 株元に寄生しているトビイロウンカ老齢幼虫
(巡回調査圃場、平成29年8月25日撮影)



写真2 株元に多数寄生しているトビイロウンカ幼虫
(巡回調査圃場、平成29年8月25日撮影)

図2 トビイロウンカの発生予想パターン

(平成29年8月29日、佐賀県農業技術防除センター作成)



注 6月24日及び7月12日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(8月28日までは今年のデータ、8月29日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。

今後の防除のポイント

- (1) 防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。
- (2) 移植時期やこれまでの防除の違いによって、圃場毎に発生状況は大きく異なるので、8月に防除を行ったほ場においても必ず9月以降、随時払い落とし法によって各圃場毎の発生量及び発育ステージを確認して防除を実施する。
- (3) その後も発生状況を調査し、多発生圃場においては追加防除を行う。
- (4) 梅雨明け以降、気温は平年より高く推移し、本種の生育が遅延したと考えられるため、今回の発生予想パターンにおける第3世代幼虫のふ化揃い期は当初の予想(7月18日発表)で示した時期よりも3~4日遅れている。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085